



古代から続く祈りの道 - 大和の石仏巡行 -

第4回 松明調進道の石仏



元 久留米工業高等専門学校教授
伊藤 義文

1. 東大寺二月堂のお水取りに使う 松明調進の歴史

東大寺二月堂の修二会は「お水取り」の通称で知られ、関西では「お水取りが終わると春が来る」と言われるほど定着している伝統行事で、毎年3月1日から14日までの2週間にわたって行われております。「お水取り」では、練行衆と呼ばれる僧侶が二月堂に上堂する際、松明で足元を照らされながら先導されます（図1）。この松明は三重県名張市赤目町の一ノ井から切り出され、極楽寺本堂に安置され、昔は奈良の東大寺まで約35kmの行程を徒歩で山を越え、松明を奉納していました。この松明調進行事は、今から遡ること約760年前の鎌倉時代から伝承される行事であると、地元では言い伝えられています。現在はその一部の区間で

松明調進行事が復活されています（図2）。

2. 松明調進ルート

奈良から名張への道は脇道や峰道を含めると幾筋もありますが、大別すれば大和高原を越える道「名張街道」と三輪から桜井を通る「初瀬街道」の2つの道があります。「名張街道」の中でも「松明調進の道」は奈良から名張への最短道ですが、鉢伏峠、一台峠、笠間峠などいくつもの峠を越えていく山間ルートでした。このルートを図3に示しますが、奈良・東大寺～田原～針ヶ別所村～小倉～小原～笠間～極楽寺と続きます。道の所々には鎌倉時代以降、多くの石仏が造立されており、旅の安全や健康祈願をお祈りしています。



図1 奈良・東大寺二月堂 お水取りの松明



図2 名張市赤目町一ノ井 松明調進行列

名張市観光協会「春を呼ぶ会」提供 (https://www.kankomie.or.jp/topics/detail_123.html)

CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH

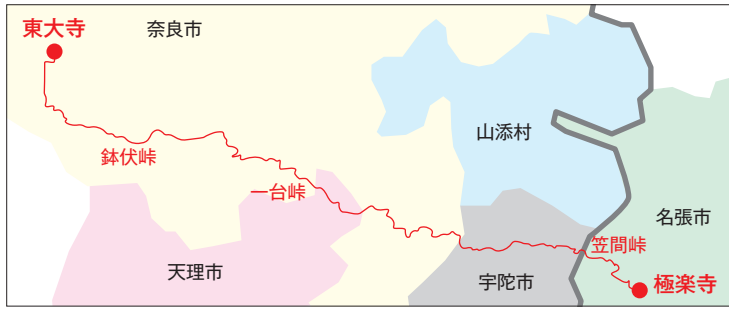


図3 松明調進の道（奈良・東大寺～名張・極楽寺）

3. 松明調進ルート上にある石仏

3.1 建長の笠地藏菩薩（田原）

田原横田の交差点から県道47号線を南に約1km行った所で、白砂川に小さい石橋が架かっており、その横に**建長の笠地藏菩薩**が立っております（図4）。像高73cm、建長年間（1249～56年）の銘があります。石仏の上に小さな突起がありますが、昔は笠が載っていた跡と思われます。顔は風化して分かりませんが、姿の美しいお地藏様です。

3.2 元徳の磨崖阿弥陀仏（南田原）

建長の笠地藏菩薩から200mほど南下しますと、こんもりとした森が見え、しっかりした囲いが作っており、その中に**元徳の南田原磨崖仏**が彫られております。磨崖仏の前には直径30cm程度の大藤の茎が直立しております。この磨崖仏は**奈良市の指定文化財**になっております。

花崗岩の壁面中央に**阿弥陀如来**（図5中央）、向かって右に**弥勒菩薩**（図5右）、左に**六地藏菩薩**（図5左下）が刻まれております。阿弥陀如来は像高170cm、丸彫りに近い立体感ある豊かな表現が見られ、刻銘から元徳3年（1331年）に東大寺の**定詮**が願主となり、**伊行恒**が作ったことが分かります。当時は大和を中心に活躍した伊派の石工による優作として貴重です。

一方、弥勒菩薩と六地藏菩薩は追刻されたもので、室町時代の大永3年（1523年）の銘があります。なお、弥勒菩薩には岩の割れ目が斜めに入っており、これゆえ「**切りつけ地藏**」と呼ばれております。また、六地藏菩薩はあの世へと旅立つ人をお地藏様のご加護



図4 建長の笠地藏菩薩



図5 南田原の磨崖仏（左下：六地藏、中央：阿弥陀如来、右：弥勒菩薩）

によって守ってもらおうといった信仰でもあります。六地藏の“六”とは六道輪廻の六のことで、地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人間道・天道を表します。

3.3 一石六地藏菩薩（針インター）

針インターチェンジの中に昔からの墓地が残されております。ここは土葬用の墓地だったそうで、墓地の中に円形や長方形の台座があり、これらは座棺用の棺台として使用されたそうです。墓地の周囲には**地藏菩薩石仏**や**六地藏磨崖仏**（図6）が祀られております。



図6 針インター付近の墓地にある六地藏磨崖仏と地藏菩薩



図7 小原の阿弥陀三尊石仏と笠塔婆

3.4 永仁阿弥陀仏と笠塔婆（小原）

宇陀市室生小原の辻堂墓地（通称：つちんど墓地）の阿弥陀三尊仏（図7）は、鎌倉後期永仁6年（1298年）に道仏が造立したものです。中尊は、板石の表面を円光背形に彫り込み、その中に像高128cmの来迎印相の阿弥陀仏を半肉彫りし、上に笠石を載せています。

右側の脇侍には、蓮華座に載って両手で蓮台を捧げ持つ観音菩薩像が半肉彫りされています。左側の脇侍は、蓮華座上で合掌する勢至菩薩が半肉彫りされています。南無阿弥陀仏の文字を刻した笠塔婆は、総高237cmで、基礎の上に幅30cm、長さ220cmの塔身が立っています。これらは宇陀市の指定文化財になっています。

3.5 天文阿弥陀磨崖仏（笠間）

上笠間の阿弥陀如来立像は笠間川の北岸にあり、花崗岩を彫りくぼめて阿弥陀如来を半肉彫りにしています。阿弥陀如来の右側には梵字の（サ）が表されており観世音菩薩を示し、左側には梵字の（サク）が表されており勢至菩薩を示し、この磨崖仏は阿弥陀三尊を表しています（図8）。滝之尾長者一夜の作と伝えられ、天文3年（1534年）3月

15日の刻銘があり、室町時代の重要な文化財です。

4. まとめ

東大寺二月堂のお水取りに使用する松明調進の道には、鎌倉時代以降、多くの石仏が祀られております。建長の笠地藏菩薩（田原）、元徳の磨崖阿弥陀仏（南田原）、永仁阿弥陀仏と笠塔婆（小原）、天文阿弥陀磨崖仏（笠間）など、昔はこれらの阿弥陀仏の前には、旅の安全を祈願して草鞋が沢山積み上げられてあったと言われています。今

も、病気平癒・進学就職・交通安全を祈願し、霊験あらたかな仏様として崇拝されています。古代から続く庶民の祈りが聞こえてくるような気がします。

今回の石仏の動画はYouTubeにアップロードしていますので、ぜひ次のキーワード検索で美しい動画をご覧ください。ぜひ幸いです。

- ・検索：南田原・下山田の石仏 - YouTube
URL : <https://www.youtube.com/watch?v=cduC9PIqbXE>
- ・検索：宇陀市室生・向淵、小原上笠間の石仏 - YouTube
URL : <https://www.youtube.com/watch?v=R-fyF5RPBV8>

著者略歴



1947年生まれ。72年、京都大学大学院卒業。以降、民間企業にて真空蒸着技術のフィルム応用や各種包装材料の開発に携わる。2004年、久留米工業高等専門学校教授。15年、退職。ライフワークとして石仏調査を行い、その成果をYouTube (<https://www.youtube.com/channel/UCvJiTXSHW2MoqwzdzpsXcOQ>) に公表している。
✉ itou910@zeus.eonet.ne.jp



図8 上笠間の阿弥陀如来立像磨崖仏と梵字